

中期活動指針 ACTION 2025

2021年度事業活動

2022年度事業活動の方向性

中部圏の地域力の持続的向上に向けて
“つなぎ” “引き出し” “伸ばす”

2022年1月13日

中部圏が目指す将来像（2030～40年頃）

〔 求められる方向性 〕

人口減少への対応、脱炭素社会の実現、東京一極集中の是正、グローバル化の取り組み、国内外の地域間競争への対応

〔 中部圏のアドバンテージ 〕

リニア開業、東海環状西回り、セントレア第二滑走路など、交通ネットワークのさらなる充実



中部圏が目指す将来像「高い地域力を誇る圏域」

（地域力：活気に溢れ、人を惹き付ける力）

中部圏が目指す将来像

高い地域力を誇る中部圏

高い付加価値を
生み出す産業が
成長し続ける
圏域

- ◆DX・イノベーション
- ◆地域経済活性化
- ◆カーボンニュートラル

多様で才能豊かな
人財が活躍し、
国内外から人を
惹き付ける
圏域

- ◆リカレント教育
- ◆教育環境の充実
- ◆働き方改革
- ◆外国人財の受入環境

連携のさらなる
活発化で持続的に
発展する
圏域

- ◆各地域の魅力向上
- ◆広域交通ネットワーク
- ◆国土強靱化

中期活動指針の基本的考え方

- 2021年からの5年間で、中部圏が国内だけでなくグローバルな競争に打ち勝つための「**地域力**」を高め、第一段階の期間と位置付け活動する。
- 中経連の役割は、産学官や地域間の連携などで、圏内各地域のステークホルダーや地域資源を「**つなぎ**」、そのポテンシャルを「**引き出し・伸ばし**」、地域力を高めることである。
- この役割を果たすことで、**中部圏の地域力が高まるよう、「付加価値の創造」、「人財の創造」、「魅力溢れる圏域の創造」の3つの「創造」**を柱とし、**8つの指針**に基づき、活動を展開する。

3つの創造と8つの指針

付加価値の創造

経済の早期回復と高い付加価値を
生み出す産業の創出・成長

- 【指針①】 コロナ禍で落ち込んだ経済の早期回復に取り組む
- 【指針②】 高い付加価値を生み出す産業の創出・成長、DXの加速に取り組む
- 【指針③】 地域産業の生産性向上・イノベーションの活発化を図り、地域経済の活性化に取り組む
- 【指針④】 カーボンニュートラル社会の実現に向けた活動に取り組む

人財の創造

多様な能力を発揮できる人財の育成と
活躍しやすい環境の整備

- 【指針⑤】 多様な能力を発揮できる人財の育成に取り組む
- 【指針⑥】 働きやすく住みやすい環境の整備に取り組む

魅力溢れる圏域の創造

広域産学官連携の活発化、
魅力と活力のある地域づくり

- 【指針⑦】 広域的な視点による連携の推進、魅力と活力のある地域づくりに取り組む
- 【指針⑧】 社会基盤の整備・維持による利便性向上と国土強靱化に取り組む

1つ目の柱「付加価値の創造」



【指針①】

コロナ禍で落ち込んだ経済の早期回復に取り組む

コロナ禍で落ち込んだ経済の早期回復に向けて必要な国や自治体による支援策や景気浮揚策等を提言し、実現する。

2021年度活動

- ・ワクチンの早期接種による感染拡大の抑制、感染症対策と社会経済活動の両立が重要との観点で、提言・要請活動を実施。
- ・大きなダメージを受けている航空機産業がコロナ禍を乗り越え、将来の世界的なクラスターとして発展していくため、当面必要な支援策を改めてとりまとめ、要請活動を実施。



2022年度活動の方向性（案）

- ・感染状況・医療体制の状況、経済の回復状況等を踏まえ、会員・地域の声や必要な施策をとりまとめ、要請活動を実施。

1つ目の柱「付加価値の創造」

【指針②】



高い付加価値を生み出す産業の創出・成長、DXの加速に取り組む

(1) ものづくりの強みを発揮し、次世代モビリティの産業形成を通じて裾野の広い産業を創出していく。

2021年度活動

- ・次世代モビリティの産業形成を推進するため、産学で連携して推進する枠組みであるプラットフォーム「CAMIP」を設立（5月）し、必要な取り組みについて2030年視野の短期アクションプランおよび2050年視野の長期ロードマップを策定。



2022年度活動の方向性（案）

- ・各機関、各地域が何処でどのような実証活動などを推進しているか全体を俯瞰し、可視化できるよう、次世代モビリティプロジェクトマップを作成し関係者と共有。
- ・プラットフォームの取り組みの実効性を高めるため、参画企業・大学・研究機関を拡大。次世代モビリティの産業形成を促し、裾野の広い産業の形式につなげる。

次世代モビリティの振興に向けた取り組み

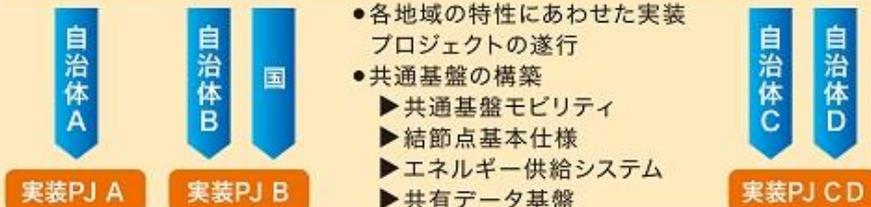
参考資料

「中部先進モビリティ実装プラットフォーム（CAMIP <キャミップ>：Chubu Advanced Mobility Implementation Platform）」を名古屋大学等と設立（5月）し、キックオフイベントを開催。2023年視野の短期アクションプランおよび2050年視野の長期ロードマップを策定（3月）し、2023年度末の「CAMIP」運用体制の確立に向けた活動を推進。

中部先進モビリティ実装プラットフォーム

(Chubu **A**dvanced **M**obility **I**mplementation **P**latform, **CAMIP**)

輸送機械製造の世界的中心地である中部圏において、自動車のCASE革命を地域に実装してその価値を社会に還元し、また同時に産業をさらに振興させるとともに研究開発を促進させるための産学官のプラットフォームを構築する。中部経済連合会所属の企業、中部圏の自治体、中部圏の大学・研究機関が連携して、プロジェクトにおける組織マッチングや、モビリティ共通基盤の開発を行う。プラットフォームの幹事役を中経連および名古屋大学モビリティ社会研究所が担う。



中部先進モビリティ実装プラットフォーム

民間企業

名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、
岐阜大学、静岡大学、愛知県立大学、
名城大学、大同大学、豊田都市交通研究所

一般社団法人
中部経済連合会
CENTRAL JAPAN ECONOMIC FEDERATION

世話役

GREMO 名古屋大学

CAMIPの概要

- 各地域の特性にあわせた実装プロジェクトの遂行（国・自治体が主導して社会実装を現場で遂行）
- 共通基盤の構築
 - * 自治体間で共用できるモビリティの設計
 - * 駅など交通結節点の基本設計
 - * エネルギー・社会コストがミニマムとなる住み良いまちづくり設計
 - * 交通関連ビッグデータ利用などの基盤構築
- 中経連産業・技術委員会を基本母体として、国・自治体・大学研究機関によるバーチャル組織を形成し、世話役として中経連産業振興部・名古屋大学モビリティ社会研究所が担当する

1つ目の柱「付加価値の創造」

【指針②】

高い付加価値を生み出す産業の創出・成長、DXの加速に取り組む



(2) 各大学や知の拠点あいち、産業技術総合研究所、ファインセラミックスセンター等の研究機関を活かした産業の高度化を図る。

2021年度活動

- ・ドイツのフラウンホーファーの仕組み等を調査・研究し、研究成果を企業や社会に効果的に実装できているシステム等を分析。

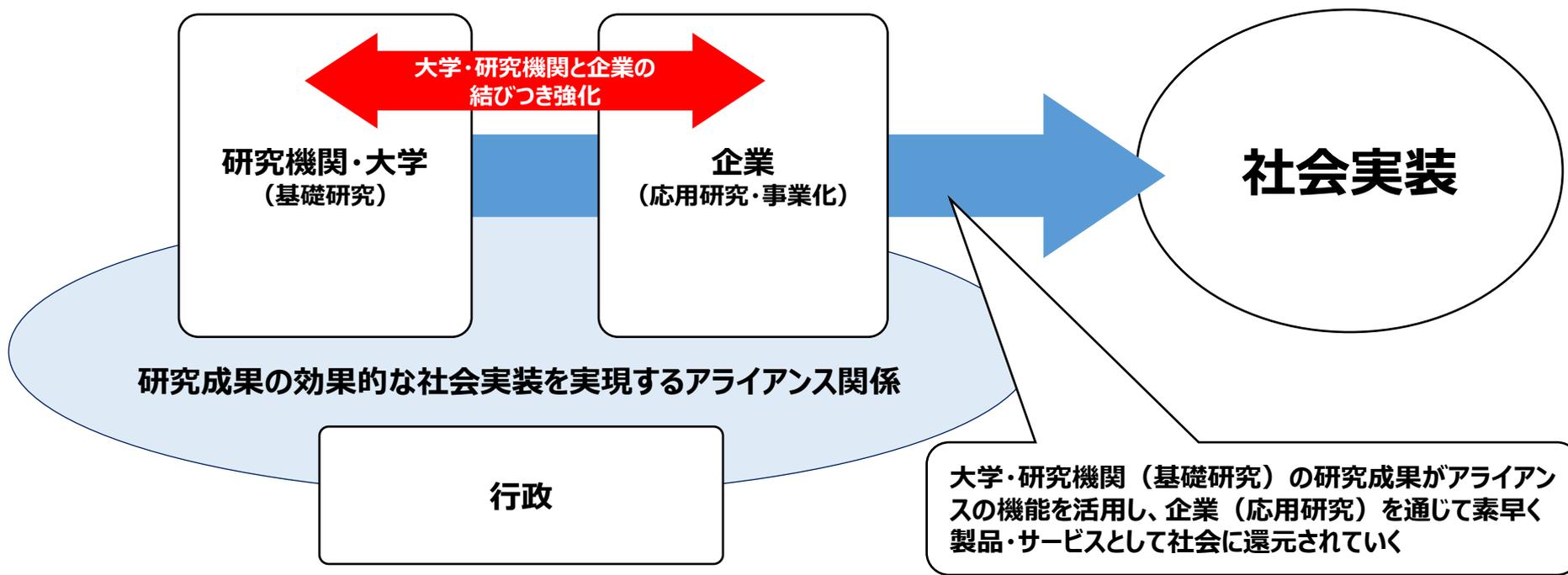


2022年度活動の方向性（案）

- ・産業の高度化に資する研究機関・大学、企業、行政等の有機的なアライアンス形成の仕組みづくりを検討し、産業の高度化につなげる。

中部圏にとって相応しい研究機関・大学、企業、行政等が有機的につながり基礎研究成果の効果的な社会実装、産業の高度化に資する仕組みづくりを検討

仕組みのイメージ



1つ目の柱「付加価値の創造」

【指針②】



高い付加価値を生み出す産業の創出・成長、DXの加速に取り組む

(3) イノベーションの活発化やスタートアップ企業の創出で新たな産業を創出・成長させていく。

2021年度活動

- ・ナゴヤイノベーターズガレージの各種プログラムを進化させながら展開し、イノベーション創出人材の育成、メンター活動によるスタートアップ支援を実施。



2022年度活動の方向性（案）

- ・イノベーションやスタートアップの活性化を図るため、これらを目指す人材の交流ポイントとしての「たまり場」が必要との考えから、ナゴヤイノベーターズガレージの拡張を図るとともに、イノベーション人材の育成プログラムのバージョンアップ等、活動を強化。

ナゴヤ イノベーターズ ガレージの展開

参考資料



イノベーション創出活動状況 プログラム一覧

目的	プログラム名	開催頻度	開催方式	概要
マインド 形成	大人の学びなおし (有料) ▶	1クール/年、全10回	リアル x オンライン	リベラル・アーツ講座 (11月スタート)
	TEENS meetup -未来のスタートアップ-	1回/年	リアル x オンライン	高校生向け啓発プログラム (7月実施済)
	キッズ&ジュニア	2回/年	リアル	小中学生向け講座 (12月/3月)
	MUSIC in the GARAGE ! ▶	3回/年	リアル	アートを身近に感じられるコンサート (7/9/12月)
気づき 発見	フューチャーコンパス ▶	10回/年	リアル x オンライン	最先端で活躍するプロフェッショナル達の講演会
	未来創造プログラム ▶	1~2回/年	リアル x オンライン	中部圏企業の未来洞察を刺激するプログラム 「モビリティ」「ニューノーマル」「デジタル」「環境(11月)」
融合 成長	ピوندザボーダー2.0 (有料) ▶	1~2クール/年 全12回	リアル x オンライン	イノベーション創出人材育成プログラム アントレプレナー、イントレプレナーを養成
	BOOST10000 (名古屋市プログラム)	1クール/年	リアル x オンライン	AI・IoT分野や共創による新ビジネス創出
共創 実践	アカデミックナイト (交流会のみ有料) ▶	不定期	リアル x (オンライン)	大学シーズと大・中堅企業等のマッチング
	IGES (アイジェス) ソサイエティ形成	不定期	リアル x オンライン	メンターによる領域別ソサイエティ形成プログラム
	CENTピッチ ~オープンイノベーションピッチ~ ▶	1回/月	リアル x オンライン	中部圏スタートアップ企業を中心としたピッチ
	GLOW TECH NAGOYA	1クール/年	リアル x オンライン	グローバル展開前提 スタートアップ 成長支援プログラム シリコンバレー流マインドセットやビジネス戦略

◆ 裾野を広げるプログラムから実践プログラムまで広く展開

◆ フューチャーコンパスを始め、オンライン開催プログラムは中部圏外からも多数参加 ➡ 地域連携の可能性

1つ目の柱「付加価値の創造」

【指針②】

高い付加価値を生み出す産業の創出・成長、DXの加速に取り組む



(4) 新たな産業の創出や生産性向上に必要なデジタル化・DXを推進する。

2021年度活動

- ・多くの企業でデジタル化が進むとともに、幅広く企業人のデジタルスキルの底上げが進むよう、デジタルを学ぶ場を紹介するWEBサイト「中部圏デジタルのすすめ」を開設（10月）し利活用を促すとともに、サイト内のコンテンツ等を充実。



2022年度活動の方向性（案）

- ・「中部圏デジタルのすすめ」の掲載内容の充実、利活用の促進によって幅広い人材のデジタルスキルの底上げを推進。
- ・企業のデジタル化・DXの伴走支援、デジタル人材の育成等を広域の産学官が連携し推進するプラットフォームを構築・推進し、中部圏のデジタル化・DXにつなげる。

デジタルリテラシー向上に係る取り組み

参考資料

取り組みの概要

・中部圏内各地やオンライン空間においてデジタルリテラシーを学ぶ場が充実しつつあることを踏まえ、企業で働く幅広い層の学習の場への橋渡しを目的に、以下の2事業を産学官で実施。

- ①地域やオンラインで受講できる研修や講義を一元的にまとめた**WEBサイトの開設**
- ②デジタルリテラシー習得の意欲喚起に向けたオリジナル**コンテンツの制作**

①WEBサイト「中部圏デジタルのすすめ」の開設（10月）



<https://sway.office.com/vfpgZCNFk6OZrB5U?ref=Link>

【掲載しているコンテンツ】

- 1. MOOCなど無料で学べるオンライン学習プラットフォーム
- 2. 中部圏各地の行政や大学が主催する研修・セミナー
- 3. 検定・試験情報
- 4. 行政が開設しているデジタル化・DX推進の相談窓口

JMOOC (日本オープンオンライン教育推進協議会)

無料で学べる日本最大のオンライン大学講座。デジタルリテラシーや初歩的なスキルを学べる講座が多数開講中。

★詳細及び受講登録はこちらから★

無料のオンライン大学講座プラットフォームJMOOC

愛知県	入門	複数会場 (名古屋・豊田・豊橋)
RPA	デジタルツール体験	演習あり

デジタル技術 導入・活用研修会

★詳細及び申込みはこちらから★

愛知県が主催する講座

②コンテンツの制作（2021年度内）

内 容：デジタル利活用のメリットやスキル刷新の必要性を訴求する動画
対 象：ミドル・シニア層、文系人材等
制作担当：中部圏の大学・大学院生
活用方法：中部圏産学官の共通コンテンツとして、①のWEBサイトに掲載するとともに、中部圏の行政や経済団体での啓発活動で活用

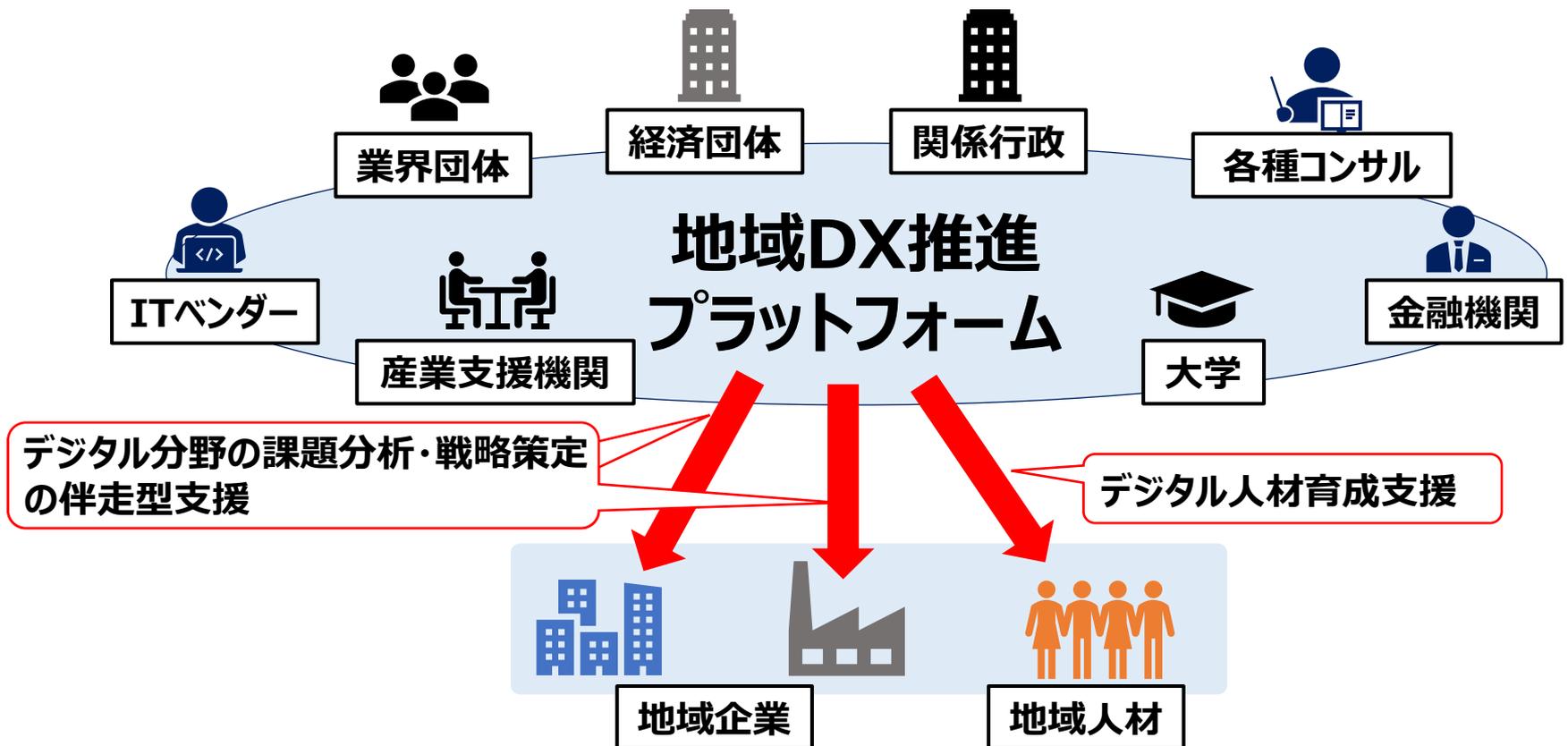
①②の取り組みにより、 中部圏のデジタル化の促進 DXの土壌を涵養



地域のデジタル化を推進するプラットフォームのイメージ

参考資料

- ・地域企業の経営・デジタルに関する専門的知見・ノウハウを補完するため、産学官の関係者が一体となったプラットフォームを構築
- ・プラットフォーム参加機関がそれぞれの強みを活かし、デジタル化・DXに向けた伴走支援、地域デジタル人材育成の支援に取り組む



1つ目の柱「付加価値の創造」

【指針③】



**地域産業の生産性向上・イノベーションの活発化を図り、
地域経済の活性化に取り組む**

**圏内各地域の特徴や強みを生かし、魅力ある産業と雇用の場を創出するため、地域間・
産学官の連携を活発化し、地域産業・地域経済の活性化に取り組む。**

2021年度活動

- ・グローバルレベルで見た中部圏の実力・魅力の現状の定量評価に着手。
- ・2026年に開通する東海環状自動車道西回りを活かした地域経済の活性化をテーマに沿線商工会議所との勉強会を開催。

2022年度活動の方向性（案）



- ・中部圏の実力・魅力の定量評価の結果を踏まえ、伸ばすべき領域や指標を明確化し、伸ばし方の具体化を検討。
- ・東海環状自動車道西回り開通による人流・物流の増加を目的に、沿線商工会議所と連携して地域経済の活性化に資する活動を検討。
- ・地域産品の海外販路拡大に向けて、食、酒、伝統工芸品、観光等をセットにして中部圏の魅力発信するため海外機関等との交流の場を検討。

定量評価の流れ

1. 比較対象とする海外の圏域の設定

圏域	年	総人口	%0-14歳	%15-64歳	%65歳-
中部圏	2019	17,013,000	12.7%	59.4%	28.0%
バーデン=ヴュルテンベルク州	2019	11,069,500	14.0%	65.9%	20.2%
バイエルン州	2019	13,076,700	13.6%	66.0%	20.4%
シカゴ・ネイバービル (イリノイ州)	2019	10,362,600	18.5%	66.1%	15.4%
ダラス・フォートワース (テキサス州)	2019	9,318,700	20.9%	66.1%	12.9%
	2019	28,986,800	21.3%	65.9%	12.9%

2. 評価項目の整理と評価指標の選定

評価指標の例（一部抜粋）

人口・面積	産業別生産額	留学生数
生産年齢人口	産業別粗付加価値額	宿泊者数
雇用者数	R&D投資額	ハイクラス宿泊施設
GRP	大学数	国際会議開催件数
GRP成長率	研究者数	観光スポット数
輸出入金額	スタートアップ数	国際線旅客数
Fortune500企業数	特許出願数	航空発着回数
賃金水準	性/年齢別労働参加率	道路密度

3. 評価指標のデータ収集、定量評価の実施

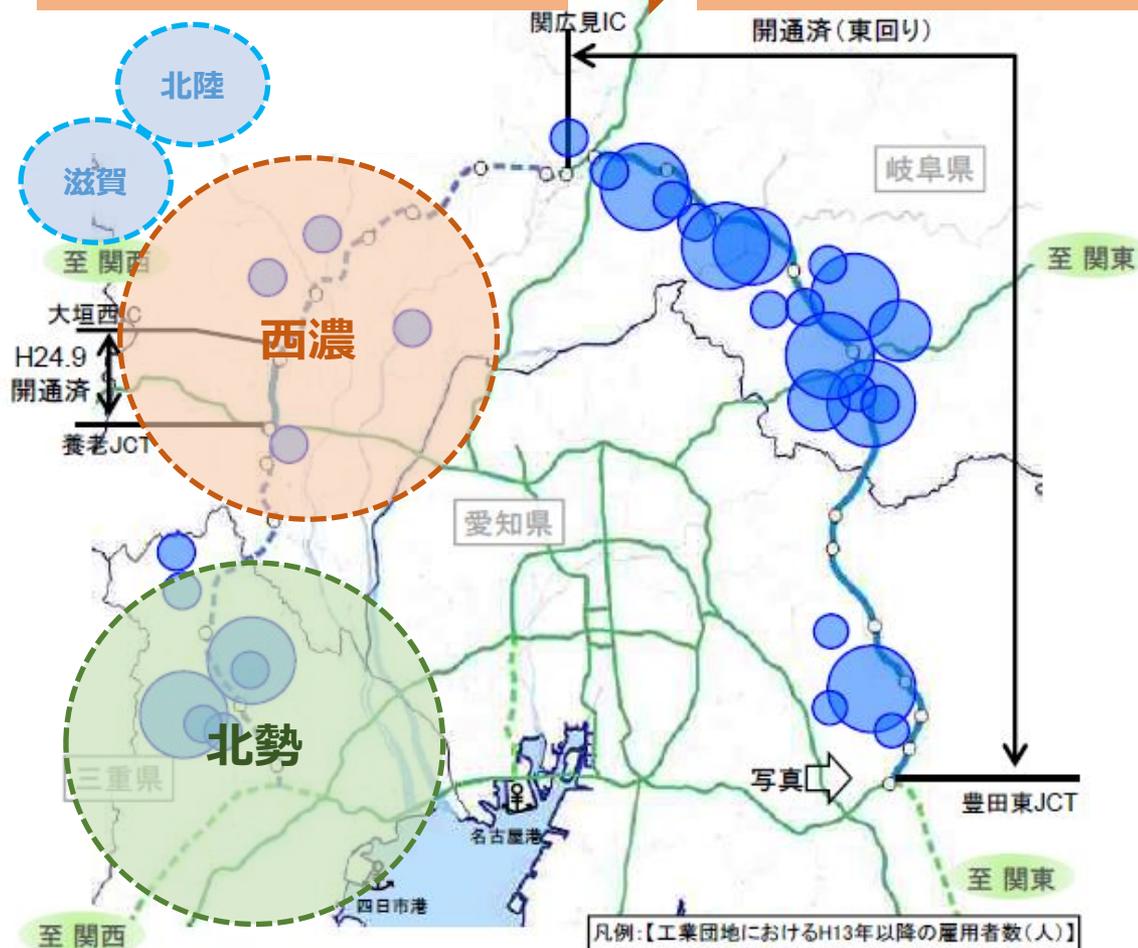
伸ばすべき領域や指標を明確化し、伸ばし方の具体化を検討

東海環状自動車道西回りを活かした地域間連携

参考資料

西回りが開通し、
2026年に全線開通

人・もの等の新たな流れを踏まえ、
地域間連携による地域力の向上に向けた活動を検討



東回り開通のストック効果

進出企業数 約130企業

沿線工業団地 約1.6倍
(30→49箇所)

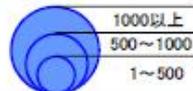
雇用者数 約3万人

製造品出荷額等 約1.4倍
(14→20兆円)

商業施設立地数 41箇所

出所: 東海環状地域整備推進協議会
「東海環状自動車道ストック効果説明資料」
より抜粋・加工

凡例:【工業団地におけるH13年以降の雇用者数(人)】



※調査の結果、
不明の場合は除く

地域産品の海外販路拡大に向けた取り組み

参考資料

取り組みのイメージ

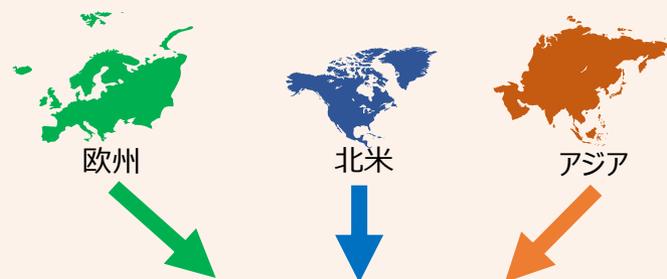
1. 中部圏各地域の食、酒、伝統工芸品、観光資源を整理



	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
食	●▲■◎	▽○○▲	▽○○▲	▽○○▲	▽○○▲
酒（酒蔵）	○○○	○○▲●	●▲■◎	○○▲●	○○○
伝統工芸品	●▲■◎	▽○○▲	▽○○▲	◎○▲	●▲■◎
観光	●▲■◎	○○▲●	○○○	○○○	●▲■◎

2. 外国公館や商工団体に地域や地域産品の訪問・体験していただき意見交換を実施

3. 地域産品の国・地域ごとの趣味嗜好に応じた組み合わせ方・見せ方を検討



	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
食	●▲■◎	▽○○▲	▽○○▲	▽○○▲	▽○○▲
酒（酒蔵）	○○○	○○▲●	●▲■◎	○○▲●	○○○
伝統工芸品	●▲■◎	▽○○▲	▽○○▲	◎○▲	●▲■◎
観光	●▲■◎	○○▲●	○○○	○○○	●▲■◎

4. 外国公館・商工団体等に母国でのPRを依頼

1つ目の柱「付加価値の創造」

【指針④】



カーボンニュートラル社会の実現に向けた活動に取り組む

エネルギーの需給両面での革新的な取り組み等によって、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みを推進する。

2021年度活動

- ・「カーボンニュートラルの実現を見据えた経済社会の変革」をテーマに提言書を策定（1月）。提言書では、カーボンニュートラルの実現の課題等を多面的に整理し、人材投資・育成の側面を重視しつつ、「デジタル化・DX推進」「イノベーション・産業構造の転換」「自立・分散循環経済型社会の形成」「意識変革・行動変容」等の項目で、中部圏が取り組むべき内容を取りまとめ、提言。

2022年度活動の方向性（案）



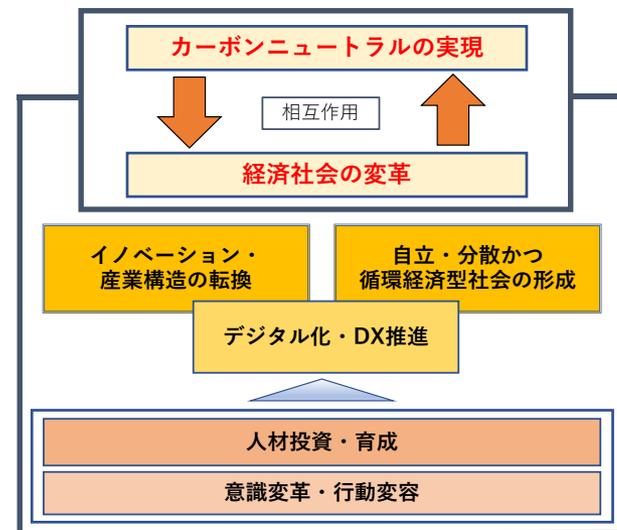
- ・上記提言書で掲げた実行活動として、脱炭素関連事業を実施したい自治体と、連携・協力することができる企業のマッチングの場の提供や良好事例の横展開等で、地域の省エネ・省CO2の推進を支援するなど、カーボンニュートラル社会の実現に取り組む。

「カーボンニュートラルの実現を見据えた経済社会の変革」

参考資料

※1月度総合政策会議にて審議後、公表予定

- ・カーボンニュートラル実現のために経済社会の変革が不可欠であり、そのための取り組みとして「デジタル化・DX推進」「イノベーション・産業構造の転換」「人材投資・育成」「自立・分散かつ循環経済型社会の形成」「意識変革・行動変容」5つを選定。
- ・5つの取り組みに、2つの課題（「ポストコロナに向けての課題」、「脱炭素に向けての課題」）と、「中部圏の特性」を掛け合わせ、具体的に「中部圏の取り組みの方向性」としてとりまとめ。



5つの取り組み

- 1 イノベーション・産業構造の転換
- 2 自立・分散かつ循環経済型社会の形成
- 3 人材投資・育成
- 4 デジタル化・DX推進
- 5 意識変革・行動変容

2つの課題・中部圏の特性

- A ポストコロナに向けての課題
- B 脱炭素に向けての課題
- C 中部圏の特性

中部圏の取り組みの方向性（一部抜粋）

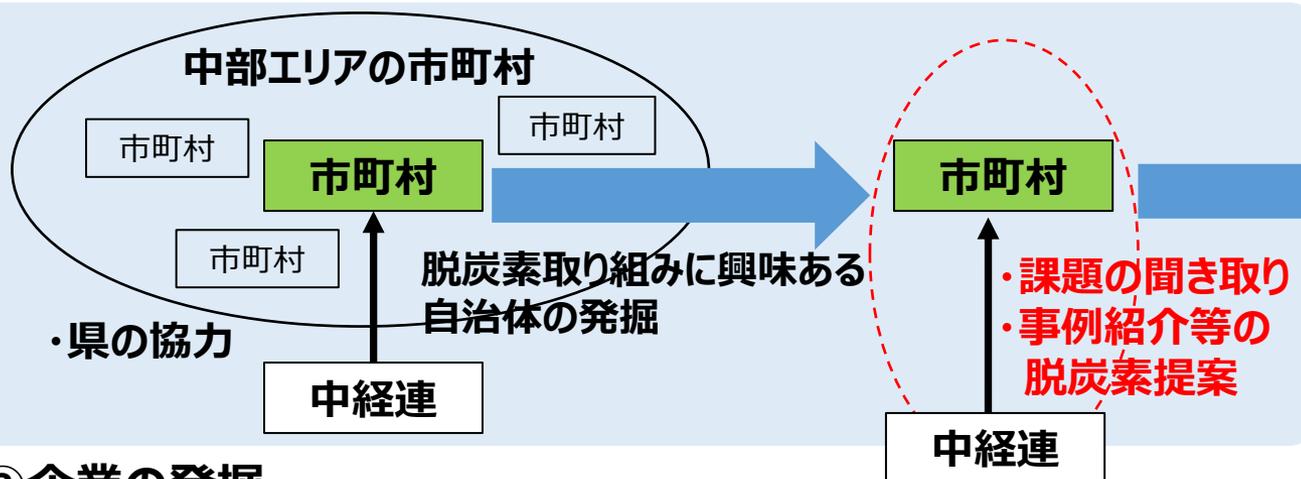
- モビリティ分野等でのトランジション技術の有効活用と国際社会での理解促進、グリーンで付加価値の高い産業構造への転換
- 「循環経済型社会の形成」と「マイクログリッドの社会実装」、エネルギーの地産地消による効率的なエネルギー使用・レジリエンス向上
- 人材投資・育成の強化、多様な人材活躍推進
- グリーン×デジタルの推進、DX推進
- 気候変動・脱炭素の理解促進、ライフスタイルの転換

地域の脱炭素に向けた取り組みの推進

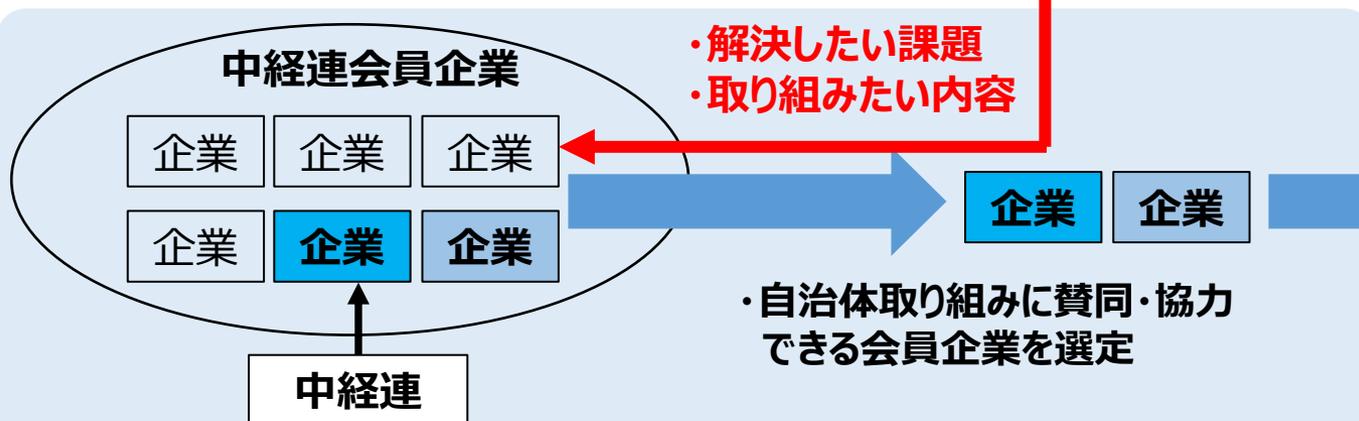
参考資料

自立・分散かつ循環経済型社会の形成に向けた活動イメージ

①自治体の発掘（具体的な脱炭素の取り組み提案）



②企業の発掘



③マッチング



④マッチング後の対応

・良好事例横展開
(→県、市町村、企業)

2つ目の柱「人財の創造」

【指針⑤】

多様な能力を発揮できる人財の育成に取り組む



【指針⑥】

働きやすく住みやすい環境の整備に取り組む



多様な能力を発揮できる人材が活躍できるよう、社会環境の変化に対応した働き方や教育への変革につながる活動を推進する。

2021年度活動

- ・社会環境の変化に対応した雇用システムの実現に向けて、愛知県経営者協会と連携・協力し、調査・研究を実施。



2022年度活動の方向性（案）

- ・社会環境の変化に対応した雇用システムも踏まえた大学の教育システムの変更に向けた課題と対応策を検討。
- ・地域の大学で地域活性化に知の拠点としての機能を発揮できるよう、産学連携の先進事例の共有を図る。

3つ目の柱「魅力溢れる圏域の創造」



【指針⑦】

広域的な視点による連携の推進、魅力と活力のある地域づくりに取り組む

(1) 広域での産学官連携を推進し、相乗効果を生み出し、魅力と活力のある地域づくりに取り組む。

2021年度活動

- ・広域での産学官連携活動を活発化させるため、産学官の実務者によるワーキンググループを設置し、観光、デジタル人材、防災等の連携テーマの活動状況を共有し、各機関の連携意識を向上。活動をさらに活発化させるため、「中央日本交流・連携サミット」の場（2月）で、広域の産学官連携に特化した会議体の設置を提案。

2022年度活動の方向性（案）



- ・「中部圏広域産学官連携協議会（仮称）」を設立し、広域的な課題に対する産学官の認識共有と課題解決に向けた議論や解決策を推進を強化。

広域での産学官連携活動

参考資料

・中部圏内の各地域が、特徴を活かし、相互に補完しながら連携し、相乗効果を生み出すことを目的に開始

- 共通する課題に対する施策の共有化、課題に対する打ち手の幅の広がり

2019年度 中央日本交流・連携サミット（2020年2月）

- 広域産学官連携の必要性について合意
⇒ サミットの後に観光、防災、イノベーション、デジタル人材等をテーマアップ

2020年度 中央日本交流・連携サミット（2021年1月）

- 各テーマの進捗と今後の活動を確認
- 実務者レベルの連携の場の創設を合意 ⇒ 「広域産学官協働ワーキング グループ」を設置

観光

- ✓ 需要回復期を見据え、観光データを活用するためのプラットフォームの構築

デジタル人材

- ✓ 幅広い就労人材のデジタルスキルの底上げに資する学び・仕組みづくり

イノベーション

- ✓ 各地域のイノベーション拠点の連携

防災

- ✓ 国・自治体が活用しているSIP4Dを民間も活用できる仕組みの検討 等

2021年度 中央日本交流・連携サミット（2022年2月）

- 各テーマの進捗と今後の活動を確認
- 新たな会議体の設置に向けた議論

参加者：5県1市の副首長
5国立大学の総長・学長
経産・整備・運輸局長
中経連

3つ目の柱「魅力溢れる圏域の創造」



【指針⑦】

広域的な視点による連携の推進、魅力と活力のある地域づくりに取り組む

(2) 中部圏の持つポテンシャルを活かした魅力と活力のある地域づくりに取り組む。

2021年度活動

- ・これまで気づいていない中部圏の魅力の発掘や情報発信のあり方の検討、中経連の活動のダイバーシティを推進するため、第一線で活躍する女性11人をメンバーとした「中部の魅力を語るなでしこの会」を設置（7月）し、中部圏の「住みやすさ」「観光」の魅力等をテーマにディスカッションを実施。

2022年度活動の方向性（案）



- ・中部圏の「住みやすさ」「観光」をテーマに魅力の発掘、情報発信等の観点で提言をとりまとめ、自治体等へ情報を発信。

3つ目の柱「魅力溢れる圏域の創造」



【指針⑧】

社会基盤の整備・維持による利便性向上と国土強靱化に取り組む

海外を含めた圏域内外とのつながりを強化するため、交通ネットワークの整備によって利便性を高め、人流・物流を活発化させていく。

2021年度活動

- ・セントレア第二滑走路整備の検討を行う「中部国際空港将来構想推進調整会議」に参画し、地元構想案「中部国際空港の将来構想」を策定。
- ・産業、脱炭素、老朽化、防災、地域活性化の分野ごとに社会基盤インフラのあり方を整理し、必要な交通ネットワークの整備を求める「中部圏交通ネットワークビジョン」（3月）を策定。

2022年度活動の方向性（案）



- ・「中部国際空港の将来構想」の実現に向けて、自治体等と連携した要請活動を実施。経済界として、ビジネス渡航・貨物需要の取り込みを図るセントレアの利用促進活動を強化。